

〈追悼〉

## 兵庫県外教設立に尽力いただいた領家さんへ

辻本 久夫

2011年秋、久しぶりに上ヶ原キャンパスへ行くことがあり、校内に入って領家さんと初めて出会ったことを思い浮かべました。その時も秋で、確か1993年でした。その頃私は、県立高校の教員をしており、高校教員中心に結成された「兵庫在日韓国朝鮮人教育を考える会（略称、考える会）」のメンバーに加わり公開セミナーや高校生の就職差別（国籍条項）撤廃等の活動に参加していました。

1992年8月頃から、考える会は全国在日朝鮮人（現在は、外国人）教育研究協議会より1995年8月に兵庫での第16回全国研究集会の開催を要請されていました。考える会という小さなサークルにとっては、2000人近い参加者がある全国研究集会の受入れは、会場はじめ大きな課題がありました。当時の私は受入れ窓口を担当して、行政はじめ、県内の教育・人権諸団体に受入の相談をしていました。その中で、当時の兵庫県で在日韓国朝鮮人の人権に関心を持ち、「社団法人兵庫部落解放研究所（略称、研究所）」の所長もしていた故山田照美さんとお会いすることになりました。山田さんは関学法学部教授だったので、上ヶ原キャンパスでお会いすることになり、考える会のメンバー数人と出向いた時、同席されたのが、社会学部教授だった領家さんでした。お二人は、上ヶ原キャンパスでの開催に協力を約束してくれました。私にとっては、その時が領家さんとの初めての出会いと

なり、それからはお会いする時が続きました。

1995年1月、あの阪神・淡路大震災が起これ、阪神間は住宅、工場、企業等に大きな被害を受け、犠牲者も6000人以上にも及びました。療養中だった山田教授も震災後の1月21日に死去された。法学部の葬儀に出向いたとき、領家さんは、山田さんが亡くなられたので、今後は私に連絡してくださいと行ってくださった。大会準備を進めていた地元実行委員会の小中・高校の教員は、自ら避難生活をする者、学校が避難所になり運営にあたる者など困難な状況のなかで、数回の話合いを持ち、4月に大会開催を決定しました。まだ、震災後半年余りでまだ交通アクセスも不十分な時期でした。

私はそのことを領家さんに伝え、相談しました。そして領家さんは、山田さんの後任に当時経済学部教授の故安保則夫さんを紹介してくださった。安保さんとの出会いはこの時が初めてでした。それから領家さん、安保さん、辻本の長い付き合いが始まりました。兵庫大会では、地元実行委員会代表に元衆議院議員の本岡昭次さん、副委員長に安保さん、領家さんは大学生協との交渉など裏方をしてくれました。兵庫大会は震災7ヶ月目でしたが、2000人を超える参加者となり、成功裡に終わることができました。

また、領家さんは、この全国研究集会後の兵庫県外教設立にも大きく貢献してくれました。兵庫

大会を終え、10月、準備・運営を担った多くの小・中・高校教員は、総括で新しいネットワーク組織の「兵庫県外教設立」を強く志向しました。この時、奈良県と大阪府には各府県教育委員会が公認する府（県）外教ができあがっていました。しかし、当時の兵庫の状況からは、大変難しい課題でした。その意思を安保、領家さんに伝え協力をお願いした。二人はその時代が来たねと了解してくれました。そして95年12月、兵庫県外教「設立準備会」を結成しました。安保さんを代表に、領家さんほか4人が世話人となり活動を始めました。97年4月発足までの15か月間、研究集会や地区講座、子どもの集いなどを行う一方、領家さんら世話人は、兵庫の大学教員等の「設立賛同人」集めに尽力をくださった。96年12月末には関学の教員を含め106人となりました。また、安保さんと領家さんら世話人は、私とともに兵庫県や県教育委員会の行政機関や教職員組合など諸団体に「設立」への協力・承認・支援等の依頼などに動いてくださった。

そして設立後、領家さんは、2002年3月に病気引退されるまで「顧問」として支えてくれました。体調が悪くなってからも、豊中の自宅からタクシーに乗り歩行器を使いながら、毎年の研究集会や総会には必ず参加くださり、「県外教は活気がある」「県外教に来ると元気が出る」と言ってくくださるなど、いつも励ましてくださった。そして安保兵庫県外教会長の急死をわが子の死のように悲しんでおられた。

一方、領家さんは山田教授の後任として、研究所の所長に就任された。私は以前から研究所の研究員もしていたので、領家さんと出会う機会が多くなりました。私は県外教のほか、研究所の活動で肥前名護屋城や京都などによくご一緒したことがあります。その時に領家さんが関わっておられる大阪などでの活動や課題などもよくお聞きして、意見を求められたこともありました。そして夕食

後のお酒にもよく誘われました。医者からは禁止されているのじゃと言いながら、酒を水のように飲む姿は酒に弱い私の驚きで、そのお姿は今も覚えています。またお連れ合いを亡くされた後は、魚を自分でさばいて酒のあてを作るのじゃとって領家風手作り料理も自慢されていたことも思い出しました。

このように私は領家さんと全国研究集会兵庫大会で出会い、兵庫県外教設立に尽力をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また研究所での活動を通じて部落問題などを学ばせていただきました。領家さんがいなくなり寂しくなります。でも、私なりに頑張っていきたいと思います。

領家さん、ありがとうございました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りします。